

図8. 経験的グリーン関数法に基づく広帯域波形のインバージョンによって得られた、1995年、2001年、2008年の地震のすべり量分布. 各地震によって得られたすべり量分布の重心を図4で示した重心分布にあわせて示す. 各すべり量分布の最大すべり量で規格化して0.25単位のコンターで示す. 小さな丸は、破壊の開始点の位置を表す.

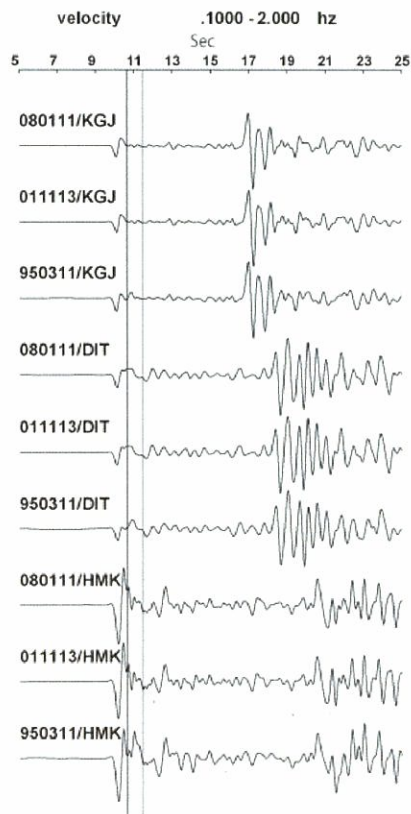


図9. 1995年、2001年、2008年の地震の広帯域波形の比較. 観測点、KGJ (遠野), DIT (大東), HMK (姫上) 観測点での STS-2 の記録の 0.1 ~ 2.0 Hz のバンドパスフィルター波形を示す. この帯域で見ると、2001年と2008年の波形は良く似ており、1995年の波形がわずかに違うことがわかる.